

2023年漁業センサス調査結果の概要

【調査結果の概要】

① 漁業経営体数

令和5年11月1日現在における、網走市の海面漁業の漁業経営体数は96経営体で、前回（平成30年調査以下同じ）に比べ1経営体（1.0%）減少しました。

② 漁業就業者数

漁業就業者数は295人で、前回に比べ168人（36.3%）減少しました。

③ 漁船隻数

漁業経営体が過去1年間に漁業生産に使用し、調査期日現在保有している漁船の総隻数は222隻で、前回に比べ1隻（0.4%）減少しました。

表1 漁業経営体数等の数値

			平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	令和5年	前回からの 増減率	北海道 シェア
①	漁業経営体数 (単位:経営体)	網走市	80	86	76	97	96	△1.0%	1.0%
		北海道	16,500	14,780	12,882	11,089	9,845	△11.2%	
		全国	132,417	115,196	94,507	79,067	65,662	△17.0%	
②	漁業就業者数 (単位:人)	網走市	356	469	441	463	295	△36.3%	1.5%
		北海道	28,890	33,568	29,652	24,378	19,938	△18.2%	
		全国	238,371	221,908	180,985	151,701	121,389	△20.0%	
③	漁船隻数 (単位:隻)	網走市	150	193	179	223	222	△0.4%	1.3%
		北海道	28,297	25,235	22,494	19,142	17,068	△10.8%	
		全国	213,808	185,465	152,998	132,201	109,283	△17.3%	

【調査結果】

1.漁業経営体数

(1) 総経営対数

令和5年11月1日現在の網走市の漁業経営体数は96経営体で、前回に比べ、1経営体（1.0%）減少しました。<図1>



図1 漁業経営体数と対前回増減率の推移

(2) 漁業層別経営体数

漁業経営体数を漁業層（主とする漁業種類と使用漁船の規模による区分）別にみると、沿岸漁業層（漁船非使用、無動力漁船、船外機付漁船、動力漁船10トン未満、定置網、海面養殖の各経営体層）は前回に比べ1経営体（1.2%）の増、中小漁業層（動力漁船10～1,000トン未満の経営体層）は2経営体（15.4%）の減となりました。

沿岸漁業層の経営体数は、85経営体と全体の88.5%を占めています。<表2、図2>

表2 漁業層別経営体数

(単位:経営体)

漁業層別	平成20年	平成25年	平成30年	令和5年	構成比		対 H30	
					H30	R5	増減数	増減率
漁業経営体数	86	76	97	96	100.0%	100.0%	△ 1	△1.0%
沿岸漁業層	58	64	84	85	86.6%	88.5%	1	1.2%
漁船非使用	-	-	-	-	-	-	-	-
無動力漁船	-	-	-	-	-	-	-	-
船外機付漁船	13	11	2	7	2.1%	7.3%	5	250.0%
動力漁船1t未満	1	1	1	-	1.0%	-	△ 1	△100.0%
1～3	1	-	2	1	2.1%	1.0%	△ 1	△50.0%
3～5	6	6	6	2	6.2%	2.1%	△ 4	△66.7%
5～10t	1	-	1	1	1.0%	1.0%	0	0.0%
大型・さけ定置網	31	20	19	28	19.6%	29.2%	9	47.4%
小型定置網	5	16	13	14	13.4%	14.6%	1	7.7%
海面養殖	-	10	40	32	41.2%	33.3%	△ 8	△20.0%
中小漁業層	28	12	13	11	13.4%	11.5%	△ 2	△15.4%
動力漁船10～20t	19	6	6	6	6.2%	6.3%	0	0.0%
20～30	-	-	1	-	1.0%	-	△ 1	△100.0%
30～50	2	2	2	1	2.1%	1.0%	△ 1	△50.0%
50～100	3	-	-	-	-	-	-	-
100～200	4	4	4	4	4.1%	4.2%	0	0.0%
200～500	-	-	-	-	-	-	-	-
500～1000t	-	-	-	-	-	-	-	-
大規模漁業層	-	-	-	-	-	-	-	-

(経営体)

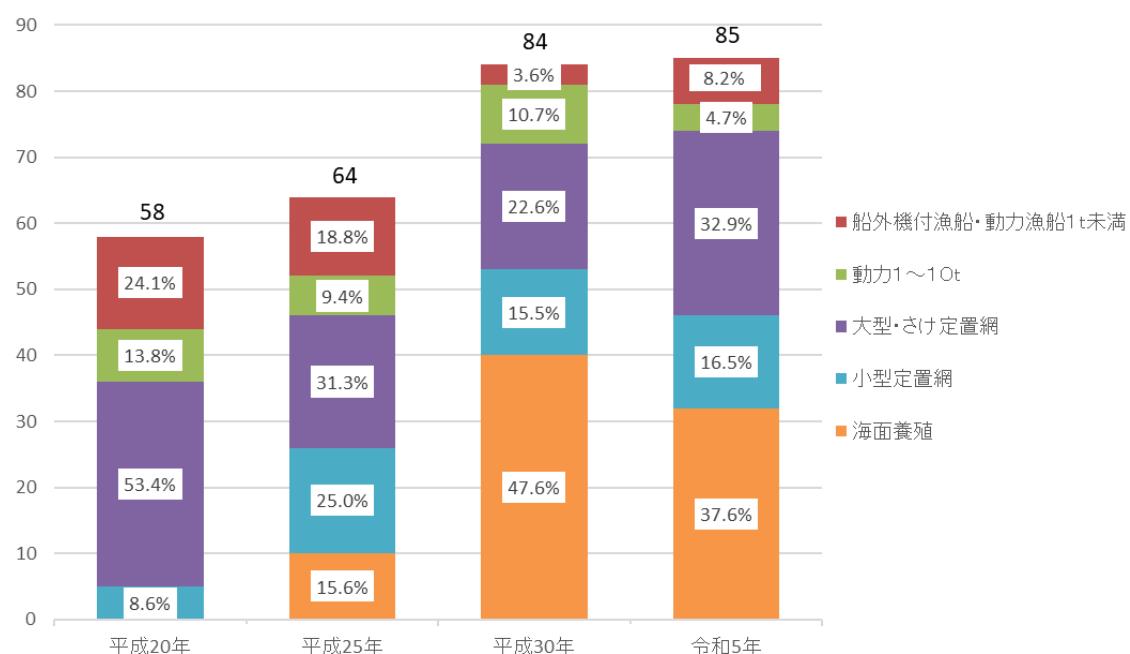


図2 沿岸漁業層経営体数の推移

(3) 主とする漁業種類別経営体数

主とする漁業種類（販売金額第1位の漁業種類）別の経営体数をみると、定置網が42経営体と全体の43.8%を占めており、次いで、海面養殖が32経営体で33.3%、その他の漁業が11経営体で11.5%となりました。<表3>

表3 主とする漁業種類別経営体数

	平成20年	平成25年	平成30年	令和5年	構成比		対 H30	
					H30	R5	増減数	増減率
漁業経営体数	86	76	97	96	100.0%	100.0%	△ 1	△1.0%
底びき網	10	8	7	6	7.2%	6.3%	△ 1	△14.3%
沖合底びき網	3	3	3	3	3.1%	3.1%	0	0.0%
小型底びき網	7	5	4	3	4.1%	3.1%	△ 1	△25.0%
船びき網	4	—	—	—	—	—	—	—
刺網	11	8	3	2	3.1%	2.1%	△ 1	△33.3%
さけ・ます流し網	—	1	—	—	—	—	—	—
その他の刺網	11	7	3	2	3.1%	2.1%	△ 1	△33.3%
定置網	36	36	32	42	33.0%	43.8%	10	31.3%
大型定置網	—	—	1	1	1.0%	1.0%	0	0.0%
さけ定置網	31	20	18	27	18.6%	28.1%	9	50.0%
小型定置網	5	16	13	14	13.4%	14.6%	1	7.7%
はえ網	5	1	3	2	3.1%	2.1%	△ 1	△33.3%
採貝・採藻	2	3	4	1	4.1%	1.0%	△ 3	△75.0%
その他の漁業	18	10	8	11	8.2%	11.5%	3	37.5%
海面養殖	—	10	40	32	41.2%	33.3%	△ 8	△20.0%
ほたてがい養殖	—	10	40	32	41.2%	33.3%	△ 8	△20.0%

(4) 経営組織別経営体数

漁業経営体数を経営組織別にみると、個人経営体が約8割を占め、前回に比べ増減はなく、77経営体となりました。

団体経営体は、前回と比べ1経営体(5.0%)減少し、19経営体となりました。<表4>

表4 経営組織別経営体数

(5) 個人漁業経営体

ア 専兼業別経営体数

総経営対数の約8割を占める個人経営体について専兼業別にみると、専業は8経営体で、前回に比べ2経営体(20.0%)減少しました。

兼業は69経営体で、前回に比べ2経営体(3.0%)増加しました。<表5>

※個人経営体の専兼業分類

①専業

個人経営体(世帯)として、過去1年間の収入が自営漁業のみからあった場合をいいます。

②第1種兼業

個人経営体(世帯)として、過去1年間の収入が自営漁業以外の仕事からもあり、かつ、自営漁業からの収入がそれ以外の仕事からの収入の合計よりも大きかった場合をいいます。

③第2種兼業

個人経営体(世帯)として、過去1年間の収入が自営漁業以外の仕事からもあり、かつ、自営漁業以外の仕事からの収入の合計が自営漁業からの収入よりも大きかった場合をいいます。

表5 個人専業別経営体数

(単位:経営体)

区分	平成20年	平成25年	平成30年	令和5年
専業	18	16	10	8
兼業	51	43	67	69
第1種兼業	51	40	60	55
第2種兼業	-	3	7	14

イ 後継者の有無別個人経営体数

個人経営体のうち、後継者のいる経営体は39経営体で、前回に比べ4経営体(9.3%)減少し、全個人経営体に占める割合は50.6%となりました。<表6>

表6 後継者の有無別個人経営体数

(単位:経営体)

区分	平成30年	うち、後継者あり		令和5年	うち、後継者あり		後継者あり経営体 対 H30	
		経営体数	割合		経営体数	割合	増減数	増減率
個人経営体数	77	43	55.8%	77	39	50.6%	△4	△9.3%

2.漁業就業者

漁業就業者数(漁業の海上作業に30日以上従事した人)は295人で、前回に比べ168人(36.3%)減少しました。

自営漁業のみは22人で、前回に比べ14人(38.9%)減少し、漁業雇われは239人で、前回に比べ145人(37.8%)減少しました。<表7、図3>

表7 漁業就業者数

区分	平成20年	平成25年	平成30年	令和5年	構成比		対 H30	
					H30	R5	増減数	増減率
漁業就業者数	469	441	463	295	100.0%	100.0%	△ 168	△36.3%
自営漁業のみ	33	38	36	22	7.8%	7.5%	△ 14	△38.9%
漁業従事役員	-	-	43	34	9.3%	11.5%	△ 9	△20.9%
漁業雇われ	436	403	384	239	82.9%	81.0%	△ 145	△37.8%
年齢階層別	469	441	463	295	100.0%	100.0%	△ 168	△36.3%
15~19歳	4	10	23	4	5.0%	1.4%	△ 19	△82.6%
20~24歳	48	48	70	28	15.1%	9.5%	△ 42	△60.0%
25~29歳	46	62	46	37	9.9%	12.5%	△ 9	△19.6%
30~34歳	48	60	58	51	12.5%	17.3%	△ 7	△12.1%
35~39歳	48	53	53	44	11.4%	14.9%	△ 9	△17.0%
40~44歳	50	35	66	16	14.3%	5.4%	△ 50	△75.8%
45~49歳	41	21	27	34	5.8%	11.5%	7	25.9%
50~54歳	31	32	21	16	4.5%	5.4%	△ 5	△23.8%
55~59歳	65	32	31	21	6.7%	7.1%	△ 10	△32.3%
60~64歳	43	57	24	21	5.2%	7.1%	△ 3	△12.5%
65~69歳	17	15	28	8	6.0%	2.7%	△ 20	△71.4%
70~74歳	20	9	9	13	1.9%	4.4%	4	44.4%
75歳以上	8	7	7	2	1.5%	0.7%	△ 5	△71.4%

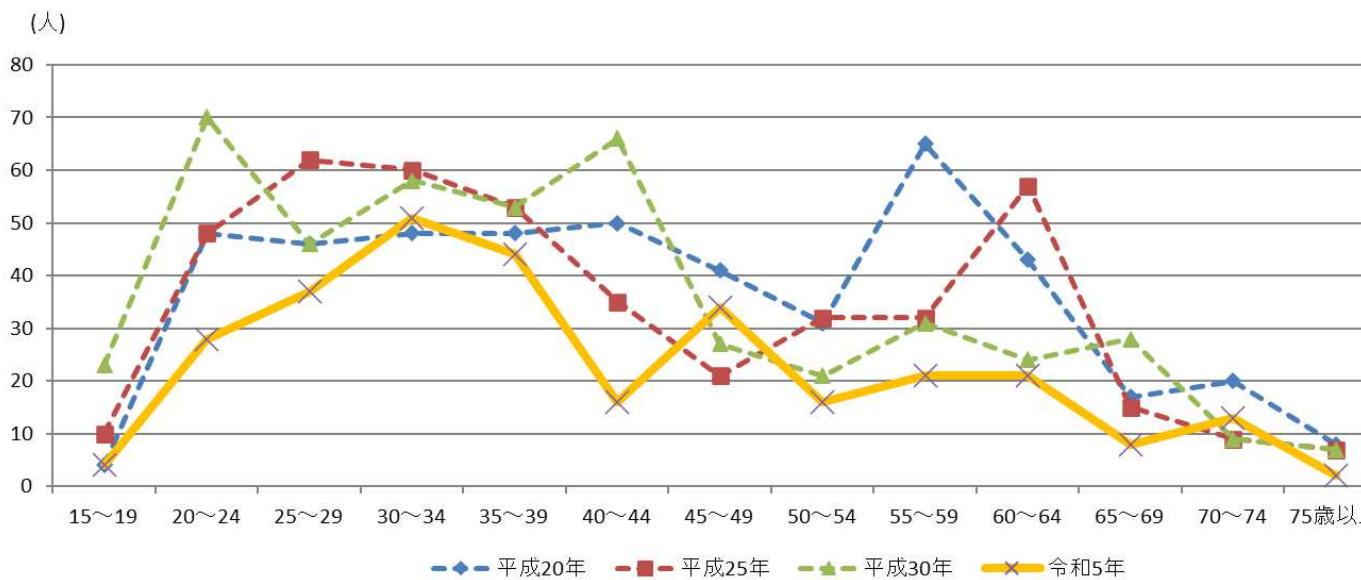


図3 年齢別漁業就業者数

3.漁船隻数

海面漁業経営体が過去1年間に使用し、調査日現在保有している漁船の総隻数は222隻で、前回に比べ1隻(0.4%)減少しました。

漁船隻数を種類別にみると、船外機付漁船が119隻（構成比53.6%）と最も多い、次いで動力漁船が101隻（同45.5%）となりました。

また、動力漁船のうち、5トン未満が9隻(13.6%)減少しましたが最も多く、全体に占める構成比は25.7%となりました。<表8>

表8 漁船種類・規模別漁船隻数